



一人ひとりの人権を振り返りましょう

校長 西田和弘

2学期は、大きな学校行事がたくさん行われました。体育大会、ミュージックフェスタを無事に終えることができ、11月14日には、1～9年生が一堂に集まる学園集会を行いました。子どもたちは、日々の学校生活はもちろんのこと、行事を通して大きく成長すると言われています。それぞれの行事を通じて様々な経験や体験を行うなかで、自らが成長できたり、仲間との新しい関係性や友達のすてきな一面を発見できたりもします。一方で、それまでの関係性が複雑になったり、変わったりすることで、子どもたちの心が揺さぶられる時期でもあります。仲間との関係性が不安定になることで心配事が増え不安になり、時にはこれらのことが原因でいじめ事象に発展することもあります。このように12月は、学習や学校生活、そして友だちとの関係性を振り返り、まとめを行う上で大切な時期です。

法務省の人権擁護機関では、昭和24年（1949年）から毎年、人権デーを最終日とする1週間（12月4日から12月10日）を「人権週間」と定め、その期間中、各関係機関及び団体と協力して、全国的に人権啓発活動を展開し、人権尊重思想の普及・高揚を呼びかけています。

彩和学園では、小学校の人権週間にあわせ小中学生が交流を行い人権学習を進めていきます。

人は、人として、人との「かかわり」がなくては生きていくことはできないと考えています。すべての人が生き生きと充実した生活を送るために、お互いを認め合い、「かかわり」を続けていくことが大切です。もし「かかわり」を望まなければ、予期せぬ人間関係のトラブルやわずらわしさを避けることができるかもしれませんが、人権学習を通して、子どもたちが主体的に「かかわり」について学び、自分自身に合ったかかわり方を模索することや、日々の生活の中でその「かかわり」を実践していくことが、人権感覚を育み、「かかわり」の必要性を実感することにつながるのではないのでしょうか。

「かかわり」の必要性や大切さを、それぞれの子どもたちが、異学年交流の中で充実させ人権学習を実りあるものにして、自分自身を振り返ってほしいと願っています。

“**You can!** 終始一貫 **MEIJIKE**” を合言葉に!

「今と未来、社会でいきる自分らしさを」～すすんで「挑戦」 つづける「継続」 つながる「共生」～